

# 学力向上だより “継続と徹底”

第64号 R元.9.17 (火)

佐賀県教育庁教育振興課

## 「内容ベース」から「資質・能力ベース」の授業づくりへ

8月7日(水)に「児童生徒の活用力向上研究指定事業及び小中連携による学力向上推進地域指定事業に係る第1回指定校連絡会」をアバンセで開催しました。講師に 佐賀大学 大学院 学校教育学研究科 教授 **岡 陽子 氏**をお招きし、演題「新学習指導要領を踏まえた授業改善と校内研修の充実」で御講演いただきました。

その後、小中学校に分かれて、各校の実践や、学力向上対策評価シートを活用した取組について意見交換を行いました。他校の取組を聞くことで、自校の取組の参考になったという声が多く聞かれました。

講演の概要と、参加された先生方の感想を以下に紹介します。



### 講演のポイント

#### 【授業改善のために】

- ・個別の知識・技能の定着を図る際に、社会の様々な場面で活用できる知識・技能として体系化しながら身に付けていくことが重要である。
- ・協力しながら問題を解決していくこと(協働的問題解決)のために、必要な思考力・判断力・表現力が求められている。
- ・資質・能力ベースの学びづくりは、教師が「何を教えるか」から「何ができるようになるか」に意識を変えることが大切である。どんな単元や題材にするかを教師が組み立てることが必要になる。
- ・発展につながるいい問題を作るといった、児童生徒の「問う力」が課題である。「問う力」は、友だちと協働しながら、新たな価値を作っていくための第一歩である。
- ・児童生徒の問いからスタートし、「学びを助けるワークシート」を工夫する(単元の学びを見通すことができる、自己の成長に気づくことができる)ことで、主体的な学びをつくっていくことにつながる。
- ・主体的・対話的で深い学びの実現のために、教えるべきは教え、考えるべきは考えさせ、「面白い!」と思える学習者主体の授業を実現する必要がある。

#### 【校内研修の充実のために】

- ・校内研修の充実のためには、研究目的(何のためか)や研究方法(なぜそうするのか)の共有化が大切である。
- ・教科をこえて議論ができる授業研究会を実施し、チーム意識を高めることが大切である。

### 参加者の感想

- ・新学習指導要領の内容を分かりやすく解説していただき、主体的・対話的で深い学びの授業づくりのイメージがもてた。
- ・新学習指導要領の趣旨をお話しいただいたので、「なぜそうするのか」を念頭において、全職員で共通理解しながら進めたい。
- ・教科をこえて、チーム意識を高める校内研修にしたい。

## 共通理解と共通実践を ～「自分ごと」として受け止めましょう～

8月26日(月)に「佐賀県学力向上対策検証・改善委員会」が開催されました。全国学力・学習状況調査の結果報告を基に、学校教育関係者のみならず、県PTA連合会、NPO法人など幅広く、様々な立場の方からご意見をうかがうことができました。その内容を一部紹介します。

### 1 「4つの取組」の徹底に向けて

- (1) 共通認識・共通実践
  - 学力は「積み上げ」。対象学年や対象教科の担当者だけの問題ではない。  
**全ての職員が自らの責任、「自分ごと」(自分にもかかわりがあること)として受け止め、どの教科でもどの学年でも取り組むべきものである。**
- (2) 分かりやすい授業
  - 担当教科の教員は真摯に受け止めているが、**組織的な授業改善が十分でない**のではないか。
- (3) 校内研修
  - 小・中連携は**目的意識**をもった取組が肝要である。
- (4) 家庭学習
  - 宿題を出すという前提も見直しが必要ではないか。**発達段階や習熟度に応じて**自学自習する力を育成する必要がある。

ここに注目!



### 2 自己肯定感の育成に向けて

- 子供は自分の言葉で伝えたがっている。誰か認めてくれる大人が必要。地域で支援すべき。
- 自分のことは自分でする経験を幼少期から積み重ねることが有効。
- **ほめて伸ばす**ことは社会人の新人教育も同じ。存在するだけで認められることも必要。
- 子供の承認欲求は強い。学校の根幹である授業の中に自ら学ぶ場、良さを認められる場を作る。

## 共通理解と共通実践を ～学校としての取組を充実させましょう～

8月30日(金)に「学力向上の取組の充実に向けた管理職研修会」を実施しました。県教育委員会から全国学力・学習状況調査の結果概要と強化する4つの取組を説明し、それを踏まえて、グループごとに学力向上対策評価シートの活用について意見交換を行いました。

意見交換で出された意見を一部紹介しますので、各学校の今後の取組の参考にしてください。

### 【評価シートの活用について】

- ・マイプランを職員室に掲示したり、共有フォルダに保存したりして、**全職員が見られる**ようにしている。
- ・マイプランを**毎月セルフチェック**するようにし、進捗状況を確認するとよいのではないか。
- ・マイプランを教科部会で協議する場を設定していきたい。

### 【授業改善について】

- ・今後さらに、「まとめ」、「振り返り」の時間を十分に確保していきたい。
- ・「授業づくりステップ1・2・3」を重要視して、授業づくりに取り組ませている。
- ・生徒用の授業アンケートを作成し、**子どもによる授業評価**を行っている。

ここに注目!



### 【校内研修の充実について】

- ・「**教科の壁をこえる**」ために、教科指導のサポート会を作り、授業研究のアドバイスをしあったり、実際の指導について協議をしたりしている。
- ・該当学年、教科以外の職員の意識を高めることが必要と感じている。

### 【家庭学習について】

- ・宿題の質と量を考える時期にきていると感じた。
- ・家庭学習で「予習」に取り組んでいる取組が参考になった。
- ・家庭学習シミュレーション(学校で家庭学習の場面をつくり、家庭学習の進め方を指導する)の取組が参考になった。

# 児童生徒の活用力向上研究指定事業 及び小中連携による学力向上推進地域指定事業の公開授業の予定

9月17日現在

9月24日(火)	城北中《社・理・英》	【活】	11月1日(金)	南波多郷学館	【活】
24日(火)	中原中《国・数・美》	【活】		前期《算》、後期《英》	
30日(月)	高木瀬小《算》	【活】	6日(水)	有田小《国》	【連】
10月1日(火)	基山中《理・英・美》	【連】	7日(木)	山代西小《国》	【連】
2日(水)	有田中《国・数・道》	【連】	8日(金)	大坪小《算》	【活】
2日(水)	長松小《算》	【連】	8日(金)	山代中《英》	【連】
8日(火)	中原小《算》	【活】	12日(火)	玄海みらい学園	【連】
8日(火)	西部中《社・数・英》	【活】		《国・数・理・英・美・保》	
9日(水)	基里小《国》	【連】	13日(水)	長松小《算》	【連】
9日(水)	若基小《算》	【連】	13日(水)	中原小《算》	【活】
10日(木)	麓小《国》	【活】	13日(水)	諸富南小《算》	【連】
17日(木)	脊振小《国》	【活】	15日(金)	高木瀬小《算》	【活】
21日(月)	大浦小《国》	【連】	19日(火)	大浦小《国》	【連】
23日(水)	北方中《数・保》	【活】	27日(水)	有田中部小《算》	【連】
24日(木)	若楠小《算》	【活】			
24日(木)	明倫小《算》	【活】			
24日(木)	諸富南小《算》	【連】			
25日(金)	立花小《算》	【活】			
30日(水)	竹木場小《家・外》	【連】			
30日(水)	高峰中《国・数・理》	【連】			
31日(木)	鹿島小《国》	【活】			
31日(木)	大川内小《国》	【活】			
11月1日(金)	切木小《社・算》	【連】			

佐賀大学教育学部附属小学校・中学校  
教育研究発表会 11月14日～15日

◎ 問い合わせ等は各学校をお願いします。

【活】：児童生徒の活用力向上研究指定事業

【連】：小中連携による学力向上推進地域指定事業

一緒に研修を深めましょう！



## インフォメーション

### 全国調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に向けた研修会

- 期 日 令和元年10月7日(月)
  - 9:00～12:00 【受付 8:30～】  
(対象校) 東部教育事務所管内小・中学校及び義務教育学校、  
県立中学校(致遠館中、香楠中)
  - 13:30～16:30 【受付 13:00～】  
(対象校) 西部教育事務所管内小・中学校及び義務教育学校  
西部教育事務所北部支所管内小・中学校及び義務教育学校  
県立中学校(武雄青陵中、唐津東中)
- 会 場 佐賀県教育センター 大研修室
- 対 象
  - 市町立小・中学校及び義務教育学校、県立中学校  
各校1名 ※学力向上コーディネーター若しくは研究主任
  - 学力向上推進教員
  - 市町教育委員会指導主事等、関係各課・所指導主事等
- 内 容
  - 今後強化する4つの取組
  - 全国調査結果を踏まえた学習指導の改善・充実に資する取組  
(国語部会、算数・数学部会、英語部会)
  - 協議

今後の取組の充実に  
向けて、話し合  
いましょう！

